



Tokyo Camii
Diyadin Turkish Culture Center
東京ジャーミイ・ディヤディントルコ文化センター



THE PRESIDENCY OF
RELIGIOUS AFFAIRS
トルコ共和国宗務庁

ちしき と は、しんじつ を みとめる こと で ある

そんけい すべき ムスリム の みなさま！

わたしたちのすうこうなしゅうきょうイスラームは、だんじょをとわず、すべてのムスリムにちしきのつきゅうをぎむづけています。ちしきは、ひとがじぶんをしり、しゅをにんしきし、そうぞうのもくてきをりかいするたすけとなります。**إِقْرَأْ بِاسْمِ رَبِّكَ الَّذِي خَلَقَ**「よめ、そうぞうしゃたるあなたのしゅのみなにおいて。」¹ このごめいれいは、ちしきのかくとくはアッラーのみなにおいて、またしゅのおよろこびのためにおこなわれなければならないことをわたしたちにおしえています。

しんあいなるしんこうしゃのみなさま！

イスラームにおいて、ちしきとは、しごとやしよくぎょうじょう、あるいはげんせのりえきのためだけにもとめるものではありません。アッラーがめいじ、よげんしゃ(saw)がみちびいてくださったちしきのかくしんとは、じんせいのちゅうしんにクルアーンをすえることです。それは、アッラーとそのしとへのあいをこころにきざむことです。それは、そうぞうしゅをうやまい、ひぞうぶつにじひをしめすというりかいをもつことです。それは、ぼうりよくをあいじょうに、にくしみをいつくしみに、うらみやてきをあいとそんけいにおきかえることです。そしてそれは、せいじつでどうとくてきな、こうけつなじせだいをそだてることなのです。

そんけい すべき ムスリム の みなさま！

わたしたちは、あいするよげんしゃ(saw)からちしきのかちをまなびました。アッラーのしと(saw)はこうかたられました。**إِنَّمَا بُعِثْتُ مَعْلَمًا**「じつにわたしは、きょうしとしてつかわされた。」² よげんしゃ(saw)は、マッカのこんなんなじだいはダール・アル＝アルカムをちしきのまなびやにかえ、そしてマディーナでのさいしょのひびにはマスジド・アン＝ナバーウィーをちえのちゅうしんちとされたのです。さらにアッラーのしと(saw)は、つぎのようにハディースをとおしてわたしたちをちしきへとつながっています。「おしえるもの、まなぶもの、きくもの、あるいはちしきをささえるもののいずれかでありなさい。ごばんめのものとなつてはならない。さもないと、はめつするであらう！」³ また、こうもべられました。「だれであれ、ちしきをえるためにみちをあゆむものには、アッラーはらくえんへのみちをよいにしてください。」⁴ こうして、ちしきをまなぶものとおしえるものに、らくえんのきつぼうをもたらされたのです。

しんあいなるしんこうしゃのみなさま！

きょう、わたしたちがちよくめんしているもんだいのこんばんのひとつは、しゅのめいれいとわたしたちのよげんしゃ(saw)のこうきなじんかくにそつて、こどもたちをきょういくできていないことにあります。かなしむべきことに、こどもたちのなかには、おさないうちからいぞんしょうのわなにおちるものもいます。かそうせかいでとばくのどろぬまにはまるものもいます。いつだつしたしそうやあやまったしんねん、ごかいにみちたかんがえにとらわれ、フィトラをゆがめられてしまうものもいます。なかまからのいじめにくるしむものもあれば、りゅうこうをおいもとめ、もうもくてきにもほうしてしまうものもいます。このてんで、わたしたちのよげんしゃ(saw)のけいこくはきわめてめいかくです。「りょうしんがここにあたえるもっともかちあるおくりものは、よいきょういくである。」⁵

しんあいなるムスリムのみなさま！

ですから、アッラーがわたしたちにたくてくださったこどもたちを、あいするよげんしゃ(saw)のじんかくにならつてそだてましょう。よげんしゃ(saw)はこうかたられました。「わたしはただ、よきじんかくをかんせいするためにつかわされた。」⁶ ぜんあくやせいごをしっかりとみわけることを、こどもたちにおしえましょう。

こんしゅうのホトバを、アッラーのしと(saw)のつぎのいのりをもってむすびます。「アッラーよ！あなたがおしえてくださったことをもって、わたしをえきするようにしてください。わたしにとってえきとなることをおしえてください。そして、わたしのちしきをふやしてください。」⁷

¹ 'Alaq, 96/1.

² Ibn Majah, Sunnah, 17.

³ Darimi, Muqaddimah, 26.

⁴ Tirmidhi, 'Ilm, 19.

⁵ Tirmidhi, Birr, 33; Ibn Hanbal, IV, 77.

⁶ Ibn Hanbal, II, 381.

⁷ Tirmidhi, Daawat 128; Ibn Majah, Sunnah, 23.